

G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施要領

制定 令和4年12月9日4輸国第3880号
農林水産省輸出・国際局長通知

第1 目的

農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱（令和4年12月2日付け4輸国第3859号農林水産事務次官依命通知。以下「交付等要綱」という。）別表1の区分の欄の3の（1）のG F Pフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトについては、交付等要綱に定めるもののほか、本要領により実施するものとする。

1 背景

「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」（2022年10月28日閣議決定）において、円安を活かした地域の「稼ぐ力」を回復・強化し、経済構造の強靱化を進めるため、農林水産物・食品の輸出額を2025年に2兆円とする目標の前倒し達成に向けて、国際競争力のある農林水産物の輸出拡大等に取り組むこととしている。

2 課題

（1）農林水産物・食品の輸出を目指す産地では、

- ①農協系統は取扱量が大きいが、輸出向けの生産を担う者が明確でなく、産地登録などに能動的に対応できていないことに加え、組合員の高齢化が進み、将来にわたる安定的な出荷が困難であったり、流通・販売体制が国内供給向けに構築されているため輸出に向けた物流が十分対応できなかったりする
- ②国内向けと異なり、様々なリスクがありコストもかかるため、継続的な取組とすることが容易でない
- ③海外からの引合いの強い品目があるものの、産地が十分に対応できず、輸出の機会を失うことがある
- ④海外からのニーズが、必ずしも産地・生産者に的確に伝わっておらず、ニーズに対応した品質・ロットの生産が十分に確保できない場合がある
- ⑤輸出に関心を持ったポテンシャルの高い商品の生産者は相当数いるにもかかわらず、生産者・産地同士が連携できていない場合がある

（2）農林水産物・食品の輸出は、国内出荷と異なり、

- ①様々な手続、食品ならではの規制並びに輸出先国によって異なる言語及び商慣習のリスク等が存在し、継続的な成果を出すことが難しい場合がある
- ②輸出に意欲のある者が、ビジネスパートナーを見つけ、連携・協力することが容易でない

等、マーケットインの輸出へ向けた課題が見られる。

3 対応

海外の規制やロット等のニーズに対応可能な輸出産地形成を加速化するため、輸出重点品目を対象に、マーケットインの発想により、地域の旗艦的な

(フラッグシップとしての) 大ロット輸出産地のモデル構築に向けた取組を支援する。

また、農林水産省が平成 30 年(2018 年)から取り組んでいる輸出産地・事業者の育成や支援に有効な G F P (※ 1) については、令和 4 年 11 月末現在、会員が 6,900 を超えているが、輸出に対する経験・規模には大きな格差があるため、多様化する輸出事業者のレベルに応じたサポート、認定農林水産物・食品輸出促進団体や輸出支援プラットフォームとの連携などの機能強化を図るとともに、継続的・安定的に活動できる運営体制を構築する必要がある。

このため、都道府県や J A 系統等の主導により、輸出商社やコンサル等の専門家も参画した都道府県における輸出推進体制(都道府県版 G F P)を組織化し、輸出支援プラットフォーム等と連携して、旗艦的な輸出産地のモデル構築に向けたプランの策定など産地の輸出戦略づくり等の取組を支援する。

※ 1 G F P (ジー・エフ・ピー)とは、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project の略称あり、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクト

第 2 補助事業者等

1 補助事業者

交付等要綱別表 1 の補助事業者の欄の 8 の輸出・国際局長が別に定める者は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 農林漁業者の組織する団体、商工業者の組織する団体、民間事業者、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、特定非営利活動法人、事業協同組合、事業協同組合連合会又は独立行政法人
- (2) 法人格を有しない団体で輸出・国際局長が特に必要と認めるもの(以下「特認団体」という。)
- (3) 特認団体は、次に掲げる要件を全て満たすものとする。
 - ア 主たる事務所の定めがあること。
 - イ 代表者の定めがあること。
 - ウ 定款、組織規程、経理規程等の組織運営に関する規約(又はこれに準ずるもの。)があること。
 - エ 各年度ごとに事業計画、収支予算等が総会において承認されていること。
- (4) 特認団体の申請をする団体は、事業実施計画(交付等要綱第 6 の 1 の事業実施計画をいう。以下同じ。)を提出する際、別記様式 1 を併せて輸出・国際局長に提出して、その承認を受けるものとする。

2 間接補助事業者

- (1) 間接補助事業者は、次のいずれかに該当する者とする。
 - ア 都道府県
 - イ 都道府県、市町村、農林漁業者、食品等製造事業者、農林漁業者の組織する団体、商工業者の組織する団体等により構成された(2)の要件を備えた協議会
- (2) (1) のイの協議会は、次に掲げる要件を全て満たすものとする。
 - ア 代表者の定めがあること。
 - イ 定款、組織規程、経理規程等の組織運営に関する規程があること。

ウ 年度ごとに事業計画、収支予算等が総会等において承認されていること。
エ 構成員の都道府県、市町村、農林漁業者、食品等製造事業者、農林漁業者の組織する団体が協議会の事務局を行っていること。

3 補助事業者並びに間接補助事業者及び間接補助事業者と第3の2を実施する者（以下「参画事業者」という。）は、次の（1）から（5）までのいずれにも該当してはならない。

- （1） 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者の団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき。
- （2） 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。
- （3） 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、又は関与しているとき。
- （4） 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
- （5） 補助事業者、間接補助事業者及び参画事業者並びにその役員等が刑事告訴された結果、又は民事法上の不法行為を行った結果、係争中であるとき。

第3 事業の内容等

海外の規制や大ロット等のニーズに対応可能な輸出産地を形成するため、都道府県やJ Aが先導し、間接補助事業者が都道府県版G F Pを組織化するとともに、輸出支援プラットフォーム等との連携の下、輸出重点品目（※2）の生産を大ロット化し、流通コスト低減も図る旗艦的な輸出産地のモデル形成を推進する以下の1及び2の取組への支援を実施する。

1 プロジェクトの管理・運営

補助事業者は、次の事業を行うものとする。

2の（1）及び（2）の事業（以下「プロジェクト」という。）を実施する間接補助事業者の公募選考会の開催、本事業の管理運営、G F P等との連携によるプロジェクトのサポート、プロジェクトの進捗状況に係る意見交換等の企画運営、プロジェクト成果の調査分析・他地域への横展開等を図るための都道府県等との連携体制の構築や成果発表会の実施等

2 G F Pフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの実施

補助事業者は、採択された間接補助事業者に対して（1）及び（2）の事業について、その要する経費を補助するものとする。

なお、（1）の事業のみ実施する間接補助事業者は補助対象外とする。

（1）都道府県版G F Pの組織化による推進体制の構築

都道府県やJ A系統等の主導の下、輸出商社やコンサル等のコーディネート、技術指導、販路開拓を行う者が参画した都道府県における輸出推進体制（都道府県版G F P等）を組織化するとともに、輸出支援プラットフォームやG F P

等と連携した出口を見据えた商流構築や販路開拓を行う取組、旗艦的な輸出産地のモデル構築に向けたプランの策定など産地の輸出戦略づくりを実施する取組。

なお、販路開拓を行う場合、海外で実施する取組については、輸出支援プラットフォーム等と連携して行う、真に安定的・継続的な販路の開拓に資する取組であって、かつ、販路開拓の効果が分析可能な取組に限り支援の対象とする。ただし、国庫補助金合計のうち、販路開拓に要する国庫補助金が30%を超える取組は、本事業の支援の対象とならない。

(2) 旗艦的な大ロット輸出産地のモデル構築

間接補助事業者は、輸出重点品目を対象に、(1)の推進体制の下で旗艦的な輸出産地を形成するため、下記の取組を実施する。

ア 生産方法の転換

マーケットインの発想に基づき、規制や大ロット・周年供給等の輸出先国・地域のニーズを踏まえ、

- ①大規模な有機農法への転換や使用農薬の見直しなど輸出向け生産への産地転換等の取組
- ②耕作放棄地の活用等による輸出向け生産のための規模拡大や、コスト低減等のための新品種・新技術導入等の取組
- ③輸出向け生産に向けた意識改革や技術取得等のために必要な人材育成等の取組

イ 集荷、船積み方法の転換

- ①コールドチェーンを確保した集荷方法・集荷体制の確立、輸送コスト軽減のための混載を前提とした集荷から船積みまでの流通体系の構築等、集荷・流通方法の転換の取組

等、産地と海外が結びつく、旗艦的な大ロット輸出産地のモデルを形成する間接補助事業者とその参画事業者が実施する取組。

なお、生産方法の転換や、集荷、船積み方法の転換といった輸出産地形成のための転換を実施しない取組は、本事業の支援の対象とならない。

※2 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」で選定された「輸出重点品目」

「農林水産物・食品の輸出拡大のための輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議」においてとりまとめられた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」で定められた「海外で評価される日本の強みがあり、輸出拡大の余地が大きく、関係者が一体となった輸出促進活動が効果的な品目」

[農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略の進捗：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

第4 補助対象経費及び補助率

- 1 本事業の補助対象経費は、第3の1又は2の事業を実施するために必要な経費であって、別表1に掲げるとおりとする。
- 2 本事業の補助率は、別表2に掲げるとおりとする。

第5 事業の実施期間

本事業の実施期間は、令和4年度とする。

第6 採択基準等

1 採択基準

交付等要綱第5の輸出・国際局長が別に定める採択基準は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 補助事業者の経営に関する書類を提出すること（決算報告書、ウェブサイト等により法人の事業内容が随時更新されているか等）。
- (2) 事業実施能力があること（主たる責任者に管理能力があり、経験等を有した人的資源が十分にあるか等）。
- (3) 事業実施方法として成果目標を達成する実現可能性があること（現状の課題を正確に把握した上で、事業の目的、主旨と合致し、実施方法が具体的に計画されているか等）。
- (4) 実施方法が効率的であること（実施時期が具体的であり、実施期間を有効に活用するスケジュールであるか、経費配分の適格性等）。
- (5) 事業の効果が確認できること（具体的な目標が設定され、その目標が妥当であり、期待される成果が得られるか、また、事業の持続性、継続性はみられるか等）。

2 事業の実施に関する留意事項

- (1) 人件費を計上する場合は、「補助事業等の実施に要する人件費の算定等の適正化について」（平成22年9月27日付け22経第960号経理課長通知）に基づき、算定するものとする。
- (2) 第3の2(2)の事業の実施にあたっては、以下のアからエまでを満たす場合は、農業機械又は食品加工機械をリースして導入することができる。

ア リースの対象となる設備・機械の利用者の範囲

リースの対象となる機械の利用者は、本事業に取り組む間接補助事業者または、事業実施計画に記載された参画事業者とする。

イ 本事業で対象とする設備・機械の範囲

本事業で対象とする設備・機械の範囲は、輸出向け生産の拡大、流通の効率化、輸出向け農産物等の加工、輸出向け農産物等の販売に必要なものとする。

なお、本事業においては、農業用機械施設補助の整理合理化について（昭和57年4月5日付け57予第401号農林水産事務次官依命通知。以下「整理合理化通知」という。）の基準を適用しないものとする。

ウ 機械の利用条件

- (ア) 本事業で使用する設備・機械については、輸出向け農産物等の生産量、出荷量、流通量、輸出向け加工食品の製造・加工量等に応じた適正な処理能力とすること。
- (イ) アに定める利用者が共同利用するもの又は間接補助事業者（参画事業者を含む）の所有するものであること。

エ リース契約の条件

本事業の対象とするリース契約（機械の賃貸を行う事業者（以下「リース事業者」という。）と利用者の2者の間で締結するリース物件の賃借権に関する契約をいう。以下同じ。）は、次に掲げる要件を全て満たすものとする。

- (ア) 事業実施計画に記載された利用者及び機械に係るものであること。
- (イ) リース事業者が納入する機械は、原則として一般競争入札で選定するこ

と。

(ウ) リース期間は、法定耐用年数（減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和 40 年大蔵省令第 15 号）に定める耐用年数をいう。）以内であること。

(エ) 本事業以外に国から直接又は間接に補助金等の交付を受けておらず、かつ、受ける予定がない機械であること。

(オ) スマート農機、ドローン、農業ロボット、環境制御施設等をリース導入する場合、当該リース物件に係るシステムサービスの提供者が、「農業分野における AI・データに関する契約ガイドライン」（令和 2 年 3 月農林水産省策定）で対象として扱うデータ等を取得するときは、間接補助事業者は、当該データ等の保管について、本ガイドラインに準拠した契約を締結すること。

(カ) 利用者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号）第 8 条の規定による補助金の交付決定通知を受けたときは、速やかに本事業に係るリース契約をリース事業者と締結すること。

(3) リース料の助成額

リース料助成額は、対象機械等ごとに次に掲げるア及びイの算式に基づき計算し、それぞれ千円未満を切り捨てた額のいずれか小さい額の合計額とすること。なお、算式中のリース物件購入価格及び残存価格は消費税を除く額とし、リース期間は機械等利用者が機械等を借り受ける日から当該リースの終了予定日までの日数を 365 で除した数値の少数第 3 位の数字を四捨五入して少数第 2 位で表した数値とする。

ア 「リース料助成額」＝（リース物件購入価格（税抜き）×（リース期間÷法定耐用年数））÷リース期間

イ 「リース料助成額」＝（（リース物件購入価格（税抜き）－残存価格））÷リース期間

(4) リース料支払いに関する特約の規定

(2) のエのリース契約においては、以下の事項を特約として規定すること。

ア リース料支払いに係る国からの助成相当額については、初回リース料支払時又は補助金受領後最初のリース料支払時に、全額を一括して支払うこと。

イ 毎期のリース料支払額は、リース料総額から国からの助成相当額を差し引いた額をリース期間中の支払回数で除した額とすること。

(5) 改植等支援

ア 第 3 の 2 (2) の事業において、輸出向け大ロット生産に向けて、労働生産性の向上が見込まれる省力樹形や、優良品目・品種への改植・新植の実施に必要な経費のほか、改植等が実施された後、事業実施期間において未収益となる期間に要する経費の一部を支援することができる。

イ アの未収益支援を受けようとする参画事業者は、間接補助事業者に対し改植等実施計画を提出するものとする。

ウ 改植等実施計画を提出した参画事業者は、改植等を完了した後、速やかに間接補助事業者に対し、改植等実施報告書を提出し、間接補助事業者は改植等の実施状況を確認するものとする。

エ 間接補助事業者は、ウの確認業務を次の a から d までに掲げる要件を全て満たす組織に委託することができる。この場合において、間接補助事業者は、

当該組織が確認業務を適切に行っているかどうかについて確認を行うこととする。

a 法人格を有していること。

b 実施確認に必要な技術的な能力を有していること。

c 実施確認を適正に行うための手続き、体制等に関する規約その他の規定が定められていること。

d 当該組織又は当該組織の構成員が、受託しようとする確認業務における確認対象に含まれる参画事業者になっていないこと。

オ 未収益支援に係る支援額、関係様式その他の必要な事項については、補助事業者が事業実施規程で定めるものとする。なお、支援額については、原則として農林水産省の他の関係補助事業を踏まえて定めるものとする。

第7 事業実施手続

1 事業実施計画の提出

補助事業者は、交付等要綱第6の1に基づき、別記様式2により事業実施計画を作成し、輸出・国際局長に提出し必要な調整を行うものとする。

ただし、交付等要綱第6の3の事業実施計画の変更（2の重要な変更に限る。）、中止又は廃止については、交付等要綱第15の変更等承認申請書の提出をもって、これに代えることができる。

2 事業実施計画の重要な変更

交付等要綱第6の3の輸出・国際局長が別に定める重要な変更は、交付等要綱別表1の3の（1）のGFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの項の重要な変更の欄に掲げる変更とする。

第8 事業の成果目標等

1 成果目標

補助事業者、間接補助事業者の目標年度は、本事業実施年度の1年後とし、成果目標は目標年度における

（1）輸出額

（2）輸出増加割合

（3）輸出量

とする。

ただし、その他目標として、（1）から（3）までに加え、（4）から（10）までも含めることができるものとする。

（4）輸出向け栽培面積の拡大（耕作放棄地の活用による拡大含む）

（5）輸出向け生産を行う農林漁業者の増加

（6）国産原料の使用量・増加割合

（7）輸出先国の規制・ニーズに適合した新商品の開発、商品の改良等

（8）ブランド化、GI等の知的財産の取得に向けた活動

（9）新たな販路の開拓

（10）（1）から（9）まで以外の輸出に関する事項

2 事業に参画する農林漁業者・事業者の所得向上効果の把握・検証

補助事業者は、プロジェクトの実施により、プロジェクトに参画した農林漁業者、食品製造業者等に裨益する効果（所得向上等）を把握し、検証すること。ま

た、間接補助事業者は、補助事業者が行う効果の把握・検証に協力すること。

第9 事業の実施

1 事業実施規程の作成

補助事業者は、第3の事業の実施に当たり、あらかじめ、当該事業の趣旨、内容、仕組み、消費税及び地方消費税の取扱い並びに補助金の交付手続等を定めた事業実施規程を作成し、別記様式3により輸出・国際局長に提出し、その承認を受けるものとする。事業実施規程を変更する場合も同様とする。

2 事業の公募

- (1) 補助事業者は、外部有識者等により構成される公募選考会を設置し、第3の2(1)及び(2)の事業を実施する間接補助事業者を公募により採択するものとする。

公募選考会は、間接補助事業者から提出された事業実施計画が適切であるか等について審査を行うものとする。

ただし、間接補助事業者の採択にあたっては、以下の(ア)から(カ)までの要件を必須とし、(キ)から(サ)までに該当する場合、加点するものとする。

【必須】

- (ア) 地域の関係者が一体となって都道府県版G F Pや市町村版G F Pといった地域版G F Pの組織化を推進するとともに、都道府県やJ A系統等が主導して本事業を推進する事業実施計画となっていること。
- (イ) 輸出支援プラットフォームが設置されている国・地域に輸出重点品目を輸出する場合、輸出支援プラットフォームと連携した事業実施計画となっていること。また、輸出支援プラットフォームが設置されていない国・地域に輸出する場合、G F Pや当該国・地域のJ E T R O海外事務所等を活用し、ニーズを踏まえた生産方法等の転換の取組を行う事業実施計画となっていること。
- (ウ) 輸出重点品目の生産・流通に係る大ロット化を図る事業実施計画となっていること。
- (エ) 大ロット化に合わせて生産・流通コストを2割以上低減する事業実施計画となっていること。(例：品種転換など生産方法の転換による生産コスト低減、集荷・運搬費の低減、海外での流通価格を下げるためのコスト削減 等)
- (オ) 本事業終了までに、本事業の実施を踏まえ輸出事業計画を作成又は変更し認定申請を行う事業実施計画となっていること。
- (カ) 間接補助事業者及びその参画事業者が、G F Pコミュニティサイト(※3)へ登録していること。

※3 <https://www.gfp1.maff.go.jp/entry/>

【任意】

- (キ) 間接補助事業者やその参画事業者のいずれかの者が、輸出促進法に基づく輸出事業計画の認定を受けていること。
- (ク) 「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範(個別規範)」に係るチェックシートを実施している事業場であること。
- (ケ) 大ロット化に伴う流通コスト低減の取組として、地方の港湾・空港の活

用に取り組む事業実施計画であること。

(コ) 生産費を考慮した価格形成が行われる事業実施計画であること。

(サ) 次の①又は②のいずれかに該当する場合。

① 労働安全衛生マネジメントシステム規格である ISO45001、JISQ45001 又は JISQ45100 の認証を受けていること。

② 労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（平成 11 年労働省告示第 53 号）に基づく取組を行っていることについて労働安全衛生コンサルタント（国家資格）の確認を受けていること。

なお、補助事業者は、間接補助事業者を公募するごとに、公募選考会を開催し、審査を行うものとする。

(2) 補助事業者は、採択された間接補助事業者の事業実施計画を取りまとめ、別記様式 4 により、輸出・国際局長に報告するものとする。

3 事業の委託

補助事業者にあつては第 3 の 1 の事業の一部を、間接補助事業者にあつては第 3 の 2 (1) 及び (2) の事業の一部を、他の者に委託して行わせる場合は、事業実施計画（別記様式 2）の別添 1 の「第 1 総括表」の「事業の委託」の欄に記載することにより輸出・国際局長の承認を得るものとする。

なお、委託して行わせることのできる範囲は、事業費の 2 分の 1 を超えてはならない。ただし、本事業のうち、海外で実施する事業の遂行に当たり、特殊な知識を必要とするなどのやむを得ない事情があると認められる場合には、事業の主たる部分（事業における総合的企画、業務遂行管理、手法の決定及び技術的判断等）を除き、この限りでない。

4 補助金の支払方法

補助金の支払方法は原則として精算払とする。ただし、予算決算及び会計令（昭和 22 年勅 165 号）第 58 条ただし書に規定する協議が調い、かつ、補助事業者からの請求により、必要があると認められる金額については概算払をすることができる。

第 10 事業実施状況等の報告

1 事業実施状況の報告

補助事業者は、交付等要綱第 33 の規定に基づき、事業終了後速やかに、事業実施計画（別記様式 2）に準じて事業実施状況報告書を作成し、輸出・国際局長に提出するものとし、事業の実績については、第 8 の事業の成果目標に基づき記載すること。

2 成果の報告等

補助事業者は、事業の成果について、事業を実施した年度の翌年度及びその次の年度の 2 年間、毎年度、採択された間接補助事業者の事業実施計画を取りまとめ、別記様式 5 による事業成果報告書を作成し、当該年度の翌年度の 6 月末までに輸出・国際局長に報告するものとする。

ただし、当該期限では適切に事業成果を評価することが困難な場合は、あらかじめ輸出・国際局長に報告の予定時期及び報告期日が遅れる合理的な理由を届出の上、報告するものとする。

なお、補助事業者は、プロジェクトの進捗状況等について農林水産省と意

見交換を行う会合を定期的で開催し、当該会合を運営すること。

第 11 事業遂行状況の報告

交付等要綱第 18 に定める事業遂行状況の報告については、補助金の交付決定に係る年度の 12 月末日現在において事業遂行状況報告書を作成し、翌月末までに農林水産大臣に提出するものとする。

ただし、交付等要綱第 19 の規定に基づき概算払を受けようとする場合は、交付等要綱別記様式第 6 号の概算払請求書の提出をもって、これに代えることができる。

第 12 報告又は指導

輸出・国際局長は、補助事業者に対し、この事業に関して必要な報告を求め、又は指導を行うことができるものとする。

第 13 特許権等の帰属

本事業を実施することにより、発生した特許権、特許を受ける権利、実用新案権、実用新案登録を受ける権利、商標権、意匠権、意匠登録を受ける権利、著作権、回路配置利用権、回路配置利用権の設定の登録を受ける権利及び育成者権（以下「特許権等」という。）については、次の 1 から 4 までの条件の遵守を約する確認書を、国に提出することを条件に、補助事業者又は間接補助事業者に帰属させることとする。ただし、国に提出された著作物等を成果の普及等に利用し、又は当該目的で第三者に利用させる権利については、国又は国の指定する者に許諾することとする。

- 1 本事業において得た成果物に関して特許権等の出願又は取得を行った場合には、その都度遅滞なく輸出・国際局長に報告すること。
- 2 国が公共の利益のために特に必要があるとしてその理由を明らかにして当該特許権等を利用する権利を求める場合には、無償で当該権利を国又は国の指定する者に許諾すること。
- 3 当該特許権等を相当期間活用していないことが認められ、かつ、当該特許権等を相当期間活用していないことについて正当な理由が認められない場合において、国が特許権等の活用を促進するために特に必要があるとしてその理由を明らかにして当該特許権等を利用する権利を求めるときは、当該権利を第三者に許諾すること。
- 4 補助事業者又は間接補助事業者は、本事業の成果である特許権等については、国以外の本事業の第三者に譲渡し、又は利用を許諾するときは、事前に輸出・国際局長と協議して承諾を得ること。

第 14 海外の付加価値税に係る還付金の納付

補助事業者又は間接補助事業者は、事業終了後に手数料等を上回る海外付加価値税の還付額が見込まれるときは、付加価値税の還付手続を速やかに行い、手数料等を除いた還付額に係る国費相当額を国庫に納付するものとする。

また、他の事業等と合算して付加価値税の還付手続を行う場合であっても、手数料等を除いた還付額に係る国費相当額を国庫に納付するものとする。

第 15 留意事項

輸出促進法第 13 条において、国、都道府県等、株式会社日本政策金融公庫は、農林水産物及び食品の輸出の促進の総合的かつ一体的な推進を図るため、相互に連携を図りながら協力することを定め、活動内容に応じて融資等の支援措置を講ずるための仕組みを創設している。このことから、本事業の実施に当たり、補助事業者、間接補助事業者の情報（事業者名、所在地、事業規模、事業内容等）について、補助事業者、間接補助事業者の規模及び性質、採択の有無等に関わらず、必要に応じ、株式会社日本政策金融公庫に提供することとする（ただし、補助事業者、間接補助事業者が第 7 の事業実施計画において情報提供への同意をしない場合を除く。）。

第 16 守秘義務

- 1 補助事業者、間接補助事業者は、本事業の遂行に際し、知り得た第三者の情報については、当該情報を提供する者の指示に従い、又は、特段の指示がないときは情報の性質に応じて、法令を遵守し、適正な管理をするものとし、本事業の目的又は提供された目的以外に利用してはならないものとする。

なお、情報のうち第三者の秘密情報（事業関係者の個人情報等を含むがこれらに限定されない。）については、機密保持のために必要な措置を講ずるものとし、正当な理由なしに開示、公表、漏えいしてはならないものとする。

- 2 補助事業者は、間接補助事業者並びに間接補助事業者を採択するために開催する公募選考員会の審査委員及び評価委員にも前項の定めを遵守させなければならないものとする。

附 則

- 1 この要領は、令和 4 年 12 月 9 日から施行する。

別表 1 補助対象経費

費目	細目	内容	注意点
備品費		- 事業を実施するために直接必要な試験、検証及び調査に係る備品の購入に要する経費 - ただし、リース・レンタルを行うことが困難な場合に限る。	- 取得単価が 50 万円以上の機器及び器具については、見積書（原則 3 社以上、該当する設備備品を 1 社しか扱っていない場合は除く。）やカタログ等を添付すること。 - 耐用年数が経過するまでは、支援対象者による善良なる管理者の注意をもって当該備品を管理する体制が整っていること。 - 当該備品を別の者に使用させる場合は、使用・管理についての契約を交わすこと。
賃金等		事業を実施するため直接必要な業務を目的として、間接補助事業者が雇用した者に対して支払う実働に応じた対価（日給又は時間給）及び通勤に要する交通費並びに雇用に伴う社会保険料等の事業主負担経費	- 賃金については、「補助事業等の実施に要する人件費の算定等の適正化について（平成 22 年 9 月 27 日付け 22 経第 960 号農林水産省大臣官房経理課長通知）」に定めるところにより取り扱うものとする。 - 賃金の単価の設定根拠となる資料を添付すること。 - 雇用通知書等により本事業にて雇用したことを明らかにすること。 - 実働に応じた対価以外の有給休暇や各種手当は認めない。
事業費	会場借料	事業を実施するために直接必要な会議等を開催する場合の会場費として支払われる経費（装飾費含む）	間接補助事業者又はその構成員が会議室を所有している場合は、支援対象者の会議室を優先的に使用すること。
	通信運搬費	事業を実施するために直接必要な郵便、運送、電話等の通信に係る経費	- 切手は物品受払簿で管理すること。 - 電話等の通信費については、基本料金を除く。
	借上料	事業を実施するために直接必要な実験機器、事務機器、通信機器、ライセンス、農業機械・施設、ほ場等の借上経費	- 農業用機械・施設については、リースも対象とする。ただし、リース費に係る費用は、本事業の事業実施年度に要した経費に限る。 - 交付対象経費は、本事業における検証に必要な期間に係る経費に限る。
	印刷製本費	事業を実施するために直接必要な資料等の印刷製本に要する経費	
	資料購入費	事業を実施するために直接必要な図書、参考文献の購入に要する経費	新聞、定期刊行物等、広く一般に購読されているものは除く。

	費	
資機材費	・事業を実施するために直接必要な次の経費 ・検証ほ場の設置、検証や管理等に係る資機材費（通常の営農活動に係るものを除く。）	・資材は物品受払簿で管理すること。
消耗品費	・事業を実施するために直接必要な以下の経費 ・短期間（補助事業実施期間内）又は一度の使用によって消費されその効用を失う低廉な物品の経費 ・USB メモリ等の低廉な記録媒体 ・実証試験等に用いる低廉な器具等 ・本事業の実施のために設置した協議会の協議会公印作成費	・消耗品費は物品受払簿で管理すること。
ほ場管理費	・ほ場管理に必要な経費	
改植等支援費	・省力樹形や優良品目・品種への改植（移動改植含む） ・新植等の実施に必要な経費	
情報発信費	・国内外で情報発信を実施するための経費（調査費、商品の改良費、プロモーション費、研修費、商品代、出展料、保険料、食材等購入費、輸送・保管費（荷積み、通関等に必要な経費含む）、広報費（システム開発費、広告費、ポスター、パンフレット、映像等）等）	・海外でプロモーション等の販路開拓の取組みを行う場合は、輸出支援プラットフォーム等と連携し、真に安定的 ・継続的な販路の開拓に資する取組であって、かつ、販路開拓の効果分析が可能な取組として実施すること。
研修等参加費	・事業を実施するために直接必要な研修等の参加に要する経費	・補助金の確定額は、補助事業に要した配分経費ごとの実施出額と、配分経費に対応する補助金の額（変更された場合は変更された額とする。）とのいずれか低い額の合計額とする。ただし、実支出額の算出に当たって、本事業により開催した研修会等において徴収した受講料等に補助対象経費が含まれる場合には、当該受講料等のうち補助対象経費に相当する金額を控除するものとする。

	輸送・保管費	・国内で事業を実施するために直接必要な資機材や物品の輸送、保管、荷積み、通関等に要する経費	
旅費	委員旅費	・事業を実施するために直接必要な会議の出席、技術指導、商流構築等を行うための旅費として、依頼した専門家や海外から訪れる検査官、海外バイヤー等に支払う経費	
	調査等旅費	・事業を実施するために直接必要なプロジェクト参加者等が行う資料収集、各種調査・検証、会議、打合せ、技術指導、研修会、成果発表等の実施に必要な経費	
謝金		・事業を実施するために直接必要なプロジェクト参加者等が行う資料整理、補助、専門的知識の提供、マニュアルの作成、原稿の執筆、資料の収集等について協力を得た人に対する謝礼に必要な経費	・謝金の単価の設定根拠となる資料を添付すること。 ・支援対象者、支援対象者の代表者及び支援対象者に従事する者に対する謝金は認めない。
委託費		・本事業の交付目的たる事業の一部（例えば、事業の成果の一部を構成する調査の実施、取りまとめ等）を他の者に委託するために必要な経費	・委託を行うに当たっては、第三者に委託することが必要かつ合理的・効果的な業務に限り実施できるものとする。 ・国庫補助金合計の 50%未満とすること。ただし、本事業のうち、海外で実施する事業の遂行等、特殊な知識・経験を必要とするなどやむを得ない事情があると認められる場合には、事業の主たる部分を除き、この限りではない。 ・海外で実施する事業の遂行に当たっては、輸出支援プラットフォームやJETRO 海外事務所に相談・連携の上実施すること。 ・民間企業内部で社内発注を行う場合は、利潤を除外した実費弁済の経費に限るものとする。
役務費		・事業を実施するために直接必要かつそれだけでは本事業の成果とは成り得ない分析、試験、実証、検証、調査、制作、加工、改良、通訳、翻訳、研修、デザイン、等を専ら行う経費	

雑役務費	手数料	・事業を実施するために直接必要な謝金等の振込手数料	
	租税公課	・事業を実施するために直接必要な委託の契約書に貼付する印紙に係る経費	
転換等 助成費		・生産者が転換先品目や栽培法を導入するために新たに必要となる種子・種苗、農薬及び肥料、生産資材等の経費	

注1 補助対象経費は、事業の対象として明確に区分できるもので、かつ、証拠書類によって金額や掛かり増し経費であること、輸出のために新たに導入したものであること等が確認できるもののみとする。なお、その経理に当たっては、費目ごとに整理するとともに他の事業等の会計と区分することとする。

注2 表に掲げる経費であっても、以下の場合にあっては補助対象外とする。

- ・本事業で得られた試作品や成果物を有償で配布した場合
- ・補助事業の有無にかかわらず補助事業者で具備すべき備品・物品等の購入及びリース・レンタルの場合

注3 次の取組に係る経費は、補助対象外とする。

- ・国等の他の助成事業で支援を受け、又は受ける予定となっている取組
- ・農産物等の輸出の際の販売価格支持又は所得補てん
- ・輸出促進プラットフォームやJETRO 海外事務所と連携していない新聞、ラジオ、テレビ等のマスメディアのほか、インターネット等による販売促進を目的とした宣伝・広告
- ・事業の期間中に発生した事故又は災害の処理のための経費
- ・その他本事業を実施する上で必要とは認められない経費及び本事業の実施に要したことを証明できない経費

別表 2

事業内容	補助率
1 本事業の運営・管理・調査・分析等 2 G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト (1) 都道府県版 G F P の組織化による推進体制の構築 (2) 旗艦的な大ロット輸出産地のモデル構築	定額 定額 (1 事業実施地区あたりの国庫補助金額については、50 百万円上限を基本とし、1 都道府県あたりの国庫補助金額については、100 百万円を上限とする。)

輸出・国際局長 殿

 所 在 地
 団 体 名
 代 表 者 氏 名

特 認 団 体 承 認 申 請 書

- 1 事業名
- 2 団体の名称
- 3 主たる事務所の所在地
- 4 代表者の役職名及び氏名
- 5 設立年月日
- 6 事業年度（ 月～ 月）

7 構成員

名称	所在地	代表者 氏名	大企業・ 中小企業 の別	従業員 数	資本金	年間販 売額	主要 事業	備考

- 8 設立目的
- 9 事業実施計画の内容
- 10 特記すべき事項

11 添付書類

- (1) 定款、組織規程、経理規程等の組織運営に関する規約（又はこれに準ずるもの）及び総会等で承認されている直近の事業計画及び収支予算等
- (2) 新たに設立された団体にあつては、設立に関する関係者の協議・調整等を示す書類（設立総会資料、設立総会議事録等）

（注1）記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合には、その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、提出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ旨を記載することとする。

- (注 2) 添付資料が申請者のウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブサイト URL を記載することにより当該資料の添付を省略することができる。
- (注 3) その他参考資料については、輸出・国際局長の求めに応じ、遅滞なく提出しなければならない。

輸出・国際局長 殿

所 在 地
団 体 名
代 表 者 氏 名

令和〇〇年度 G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施計画の提出
(変更、中止又は廃止) について

農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱(令和 4 年 12 月 2 日付け
4 輸国第 3859 号農林水産事務次官依命通知) 第 6 の 1 (注 1) の規定に基づき、関係
書類(注 2) を添えて、提出(変更、中止又は廃止) する。

(変更理由)

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (注 3)

(中止、廃止の理由)

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (注 4)

(注 1) 変更、中止又は廃止の承認申請の場合は、「第 6 の 3」とする。

(注 2) 関係書類として別添 1 を添付すること。

(注 3) 変更の場合には、事業の変更の理由を記載し、提出した事業実施計画の事業
の内容等と容易に比較対照できるよう、事業実施計画の変更部分を二段書きと
し、変更前を括弧書きで上段に記入すること。ただし、事業内容のうち当該変
更の対象外となるものについては省略する。

(注 4) 中止又は廃止の場合には、事業の中止又は廃止の理由を記載すること。

(注 5) 事業実施結果報告書として本様式を使用する場合には、件名を「令和〇〇年
度 G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施結果の報告について」
とし、別添 1 には実績を記載すること。

(注 6) 記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合に
は、その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、
提出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同
じ旨を記載することとする。

(注 7) 添付資料が申請者のウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブ
サイトの URL を記載することにより当該資料の添付を省略することができる。

別添 1

第 1 総括表（積算内訳）

事業 種類	事業 細目	事業費	負担区分		事業の委託	備考
			国庫補助金	補助事業者		
		千円	千円	千円	（１）委託先 名 （２）委託する事業の内容及び当該事業に要する経費	
合 計						

- （注） 1 事業種類は、交付等要綱別表 1 の区分により記入すること。
- 2 事業細目は、交付等要綱別表 1 の 3 の（１）の G F P フラグシップ輸出
産地形成プロジェクトの項の経費の欄の区分により記入すること。
- 3 備考欄には、区分欄に掲げる経費の根拠（経費内容、単価、数量、員数等）
を詳細に記載すること。なお、備考については、別葉とすることができる。
- 4 仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には「減額し
た金額」と、当該税額がない場合には「該当なし」と、当該税額が明らかで
ない場合には「含税額」とそれぞれ計の備考欄に記入すること。

第2 実施計画概要

1. 補助事業者の概要

事業名	G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト		
-----	---------------------------	--	--

事業担当者名及び連絡先	団体名		
	氏名（ふりがな）		
	所属（部署名等）		
	役職		
	所在地		
	電話番号		F A X
	E-mail	URL	

経理担当者名及び連絡先	氏名（ふりがな）		
	所属（部署名等）		
	役職		
	電話番号		F A X
	E-mail	URL	

個人情報 の 取 扱 い	同意します	☐	本事業の実施に当たり、輸出促進法の第13条に則り、事業者名、所在地、事業規模等について、株式会社日本政策金融公庫に提供することに同意します。 ※同意いただけなかった場合でも、事業の採択等に影響はございません。 ※輸出促進法 第13条 国、都道府県等、株式会社日本政策金融公庫その他の関係者は農林水産物及び食品の輸出の促進の総合的かつ一体的な推進を図るため、相互に連携を図りながら協力するよう努めなければならない。
	同意しません	☐	

団体概要

過去の類似・関連事業の実績、実施内容等

事業担当者の業績等

※事業担当者全員の業績を事業担当者ごとに具体的に記載してください。

1. 農林 太郎（所属・役職）

2. 農林 花子（所属・役職）

重複申請の有無 有・無

※有の場合は、申請中の応募事業名及び事業概要を記載してください。

今年度、既に採択が決定及び実施している事業があれば、その事業名及び事業概要を記載してください。

過去3年以内における補助金等の交付決定取消の原因となる行為の有無及びその概要

※該当する場合には、当該取消を受けた日を記載してください。

2. 事業概要

1 事業概要

(事業の目的)

(事業の内容)

(委員会等の委員構成)

※委員会等の委員が確定していない場合には、専門分野、所属及び氏名を見込みで記載してください。

2 実施方法

委託をする場合は、委託内容等を具体的に記載すること。

(記載例)

- ・委託内容：〇〇地域における〇〇
- ・委託理由：委託理由（委託の必要性等）を具体的に記載。
- ・委託予定先：委託先が決まっている場合は、委託先名、選定理由を記載。
委託先が決まっていない場合は、選定方法（公募等）や想定委託先等を記載。
- ・委託予定金額：〇〇〇千円
- ・委託予定金額の根拠：見積書等の金額の根拠となる資料を添付

3 実施体制

(事業実施体制を図示してください。また、連携又は委託を行う団体がある場合には、その名称、概要及び事務処理体系についても記載してください。)

※第9の2(1)で組織化する都道府県版GFP体制を記載すること。
(補助事業者が公募事業者等に求める具体的な都道府県版GFP体制の記載例)

【プロジェクトメンバー(参画事業者含む)】

1. 都道府県

(1) 部署名、(2) 担当者の役職、氏名

2. JA系統等

(1) 部署名、(2) 担当者の役職、氏名

3. 輸出商社

(1) 会社名、(2) 部署名、(3) 担当者の役職、氏名

4. . . .

【プロジェクト推進体制図】

(注) 都道府県版GFPのメンバーのうち、①プロジェクトのコーディネート、②生産者等への技術指導、③販路開拓について、各項目の役割を担う者が分かるように記載すること。

4 実施スケジュール

(委員会等の開催別に、開催地や主な内容が分かるように記載してください。)

5 事業の成果目標（達成すべき成果）、波及効果

※第8の事業の成果目標に基づき記載すること。

(補助事業者が公募事業者等に求める具体的な成果目標等の記載例)

目標年度は、本事業実施年度の1年後とする。

【成果目標】

目標年度における

- (1) 輸出額
- (2) 輸出増加割合
- (3) 輸出量

【その他目標】

- (4) 輸向け栽培面積の拡大(耕作放棄地の活用による拡大含む)
- (5) 輸向け生産を行う農林漁業者の増加
- (6) 国産原料の使用量・増加割合
- (7) 輸先国の規制・ニーズに適合した新商品の開発・改良、商品の改良等
- (8) ブランド化、G I等の知的財産の取得に向けた活動
- (9) 新たな販路の開拓
- (10) (1)から(9)以外の輸出に関する事項

6 事業成果・効果の検証方法

1. 都道府県版 G F P の組織化による推進体制の構築

2. 旗艦的な大ロット輸出産地のモデル構築

- ・ 輸出額
- ・ 輸出増加割合
- ・ 輸出量
- ・ 生産・流通コストの 2 割以上の低減
- ・ 事業に参画する農林漁業者・事業者の所得向上効果の把握・検証

別記様式3（第9関係）

番 号
年 月 日

輸出・国際局長 殿

所 在 地
団 体 名
代 表 者 氏 名

令和〇〇年度G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施規程の(変更)
承認申請について

G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施要領（令和4年 12 月 9 日付
け4 輸国第 3880 号農林水産省輸出・国際局長通知）第9の1の規定に基づき、事業実
施規程の承認を申請する。

（注1）関係書類として、実施規程を添付すること。

（注2）記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合には、
その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、提
出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ
旨を記載することとする。

（注3）添付資料が申請者のウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブ
サイトのURLを記載することにより当該資料の添付を省略することができる。

別記様式 4（第 9 関係）

番 号
年 月 日

輸出・国際局長 殿

所 在 地
団 体 名
代 表 者 氏 名

令和○年度 G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの事業実施計画の報告について

G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施要領（令和 4 年 12 月 9 日付け 4 輸国第 3880 号農林水産省輸出・国際局長通知）第 9 の 2 の（2）の規定に基づき、別紙のとおり報告する。

（注 1）別紙として、事業実施計画を添付すること。

（注 2）記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合には、その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、提出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ旨を記載することとする。

（注 3）添付資料がウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブサイトの URL を記載することにより当該資料の添付を省略することができる。

別記様式 5（第 10 関係）

番 号
年 月 日

輸出・国際局長 殿

所 在 地
団 体 名
代 表 者 氏 名

令和〇〇年度 G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクトに係る事業成果
の報告について

G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト実施要領（令和 4 年 12 月 9 日付
け 4 輸国第 3880 号農林水産省輸出・国際局長通知）第 10 の 2 の規定に基づき、別添
2 のとおり報告する。

（注 1）関係書類として別添 2 を添付すること。

（注 2）記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合には、
その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、提
出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ
旨を記載することとする。

（注 3）添付資料がウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブサイトの
URL を記載することにより当該資料の添付を省略することができる。

別添 2

1 活動内容

(注) 本事業により取り組んだ活動内容を記載するとともに、翌年度以降、間接補助事業者の事業効果の発現及び輸出促進に向けた自主的な取組がある場合は併せて記載すること。

2 事業の成果目標と成果

(注1) 事業成果の発現を複数年にわたり設定している場合は、進捗状況等を記載すること。

(注2) 当該事業実施年度内に輸出を行う場合には、事業実施年度以降の状況等を記載すること。

(注3) 第8の事業の成果目標に基づき記載することとし、事業開始前と現時点の成果実績について、具体的に記載すること。

3 評価及び要因分析

(注) 成果目標の達成状況の評価し、目標を達成していない場合は、その要因と課題を詳細に分析すること。

4 次年度以降の活動方針

(注) 評価と要因分析を踏まえた次年度以降の活動方針について、具体的に記載すること。

5 特記事項

6 添付資料